



# 帯山小学校だより

No.14 R6.3.1 文責 校長 西方 浩一

## 子どもたちの成長に喜びを感じる



先月14日(水)に本年度最後の学校評議員会を開催しました。学校評価について話し合った後、授業の様子もみていただきました。学校評議員の皆様は、いつも客観的な立場で学校をみられますが子どもたちの成長の様子を高く評価してくださいました。

授業だけでなく、部活動でも子どもの成長が見受けられます。1年が過ぎようとしている今の時期は特にそうです。先月24日(土)には、合唱部の定期演奏会が行われました。合唱部担当の職員が冒頭の挨拶で、「子どもたちが自ら気づいて動けるようになった。また、自分たちで工夫するようになった。」と話していました。私もコンクール等で応援に行った際、表現力が高まり自信が感じられるようになったのと同時に、挨拶や声をかけた時の反応がよくなったことを実感していました。今月は総合運動部のお別れ会も予定されています。そこでも、成長した子どもたちの姿が見られることを期待しています。

また、先月は、6年生と3年生の子どもが、休日に公園や校庭のごみ拾いを自主的にしてくれたといううれしい知らせもありました。そこで、その子どもたちに、感謝の気持ちを伝え、なぜ、自分からゴミ拾いをしようと思ったのか聞いてみました。すると、学校でボランティアに取り組んでいるからと答えてくれました。やはり「経験したことが日常に生きる」と感じたところです。

世間では、「学校はブラックな職場だ」と言われます。しかし、私たち教職員が頑張ったことは子どもの成長として表れ、私たちの喜びにつながります。「学校ほど彩のあるカラフルな職場はない」と改めて感じています。もうすぐ卒業式、そして、修了式です。さらなる子どもたちの成長を目指し、職員一丸となって頑張ります。

## いじめ防止等対策委員会

先月8日(木)、スクールサポーター(SS)、スクールカウンセラー(SC)、PTA会長に参加していただき、標記の会を開催しました。

まず、本校の各担当から実態や取組について報告し、参加の皆様からご意見をいただきました。PTA会長からは、「いじめを受ける側もきついが、加える側の子どものことも気になる。保護者への啓発とともに言葉かけの仕方を伝えていければと思う。」、SCからは、「いじめ問題は傍観者を含めて考えていきたい。いじめる側の背景を考えることも大事である。」というご意見をいただきました。

また、SSからは、死ねという言葉の重みやいじめを介した保護者間トラブルの事例の紹介、学校におけるいじめの対応の具体的な手立てについてお話ししていただきました。今回は、これまでも増して専門的な内容を教示していただきありがとうございました。今回の委員会でのお話を生かし、帯山小のいじめ根絶を目指します。

